

青梅市文化財ニュース

第329号

平成27年3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市立第四小学校

ほとんどの方が「よんしょう」と呼んでいるようですが、これは通称で、正しくは「だいし小学校」といいます。これからご紹介する「青梅市立第四小学校」は青梅市と同級生で、いわば青梅市の歴史そのものかもしれません。

前号の第三小学校のところでも少し触れたのですが、青梅市は、旧青梅町・旧調布村・旧霞村の一町2ヵ村が合併して昭和26年に誕生しました。その中心はやはり青梅町で、青梅町にあった現青梅市立第一小学校がこの第四小学校の母体となっています。

そのあたりのことを少し詳しく述べてみたいと思います。

青梅の町（青梅駅の周辺）は、谷口集落と言って、山地が平野へと変わる場所に古くから開けた街です。明治27年青梅線が引かれてからはどんどん周辺へと発展を続けていきました。現一小は、戦時中には約2100名の児童が在学していたようで、2部授業を行うなど今では考えられないようなマンモス校の状態でした。そこで、昭和17、8年の頃やっとのことで、府立第九高等女学校（現多摩校）の西側に学校用地を確保して青梅第二小学校を作る準備をしていたのでした。ところが、戦後の学制改革で6・3・3制が始められ、新制中学校を建てなければならなくなりました。そこで、多摩校の西側に中学校（現一中）を作ったため、第2小学校の建設予定地を新たに探す必要に迫られたのです。昭和25年の青梅小学校（現一小）は本校が2024名、日向和田分校が95名の計2119名で、さらに増加の傾向を示していました。まさに、町として第2小学校を作ることは喫緊の課題でした。また、此の頃には、「市制」を敷くという合併問題も持ち上がっており、町当局も多くの難問を抱えていたようでした。第2小学校の候補地として、「神明平」、「農林学校の試作場（現電話局の所）」、「旧ケミコン跡地（現市の駐車場）」「東青梅地区区画整理地域の中央（場所不明）」「勝沼字柿沢277番地（現四小所在地）」等が上がりましたが、地主の意見の不一致や農地問題等簡単にはいかず、やっとのことで現在地を確保できたということです。

そして、青梅・調布・霞の合併による「青梅市」誕生と同じ、昭和26年4月1日に「青

梅市立青梅第2小学校」は誕生しました。つまり、第四小学校は設立時は青梅町の2番目の学校として誕生したのです。

この辺りをもう少し詳しく見ると、現一小で4月5日に現在の勝沼1・2・3丁目、現東青梅1・4丁目の一部、現東青梅6丁目の一部の児童468名を分離して入学式を行い、そのまま青梅小学校（現一小）の校舎を間借りして、4年以下2部授業でスタートしました。校舎の方は開校に先立つ昭和25年11月15日に整地が着工され、同月30日に校舎建築工事の入札、昭和26年2月25日着工、4月7日上棟式、7月19日には青梅小学校からの移転開始、そして、8月2日に新校舎が竣工しました。昭和26年9月1日に青梅市主催により衆議院議員等多くの来賓を迎えて竣工式典が行われました。

学校が開校した26年5月中に校章制定、10月21日には第1回の運動会実施、11月に校歌も制定され、本校としての体裁を整えていきました。

開校して1年後の昭和27年4月5日、それまで旧霞村の一部として、霞小学校（現三小）へ通っていた根ヶ布地区の児童66名の入学式が行われました。この時点で、旧青梅町の子供たちと旧霞村の子供たちが教室を共にし、まさしく合併の絆が結ばれたのでした。

その後、いろいろと多くの問題が出てくる中、昭和28年9月1日より、青梅市の条例によって正式にナンバー制が導入され、青梅小学校が第1小・調布小学校が第2小、霞小学校が第3小、青梅第2小が第4小学校（注1）となりました。さらに、昭和30年4月1日師岡地区・吹上地区の旧霞村分も校区に編入され、第3小学校の4年生以下の270名の児童が第4小学校に編入学するとともに、第3小学校の師岡分教場も第4小学校に移管されました。

そして、昭和35年3月、師岡分教場の廃止を前提に校地の拡張を図り、2度にわたって校地買収を行い、現在の第四小学校の敷地が出来上がっていきました。翌昭和36年3月12日に第2校舎が落成し、正式に師岡分教場は廃止になりました。

こうして、現在に直接つながる第4小学校になっていくのですが、学校が整備されていく過程において東青梅地区の区画整理事業も深い関係にありました。第4小学校のできた場所は冒頭でも書きましたが青梅町勝沼字柿沢277番地でしたが、現在は青梅市東青梅6丁目1番地の1になっています。4小の校地は2度にわたって拡張されましたが、学校が移動したのではなく、区画整理事業によって、町名が変わったのです。

昭和28年東京都知事より「青梅土地区画整理組合」の認可を得て同29年組合が設立され、勝沼字佐久間街道・柿沢の一部西分字作間街道・石神平^{しゃもじたいら}・中原の一部（以上旧青梅町分）師岡の字大塚前・六万・道間（以上旧霞村分）等約56、7ヘクタールにも及ぶ区画整理事業が計画され、昭和39年11月に事業が完了し、これによって現在に繋がる学

区域になりました。

また、第四小学校の建っている場所はもとは田んぼだった所なので、雨が降ると校庭はぐちゃぐちゃで遊ぶところではない状態でした。（根ヶ布方面・天寧寺方面から流れてくる霞川、太陽の子広場方面から流れてくる霞川が現4小の所で合流しているためでした）昭和45年10月から第4小学校も鉄筋校舎の工事が始まりましたが、この時に合わせて、河川の改修も行われました。根ヶ布方面・天寧寺方面からの流れは暗渠にされ校庭の下を通っています。また、もう一つの流れは体育館の西側を通して霞川に流れています。この工事によって、校庭も改修され、水はけのよい校庭が完成したのでした。

第四小学校といえばもう一つ触れておかなければならないのが、特別支援学級のことであると思います。昭和32年6月、心身障害学級（当時の呼称）が師岡分校の校内に設置されました。多摩地区の中でも草分け的な設置です。この心身障害学級は師岡分校が第4小学校に吸収廃止された後も、第4小学校に引き継がれていきます。そして、「つくし学級」という名称で特別な支援を必要とする子供たち（現在は特別支援教育なる呼称）の教育を担っています。

第四小学校は現在400名足らずの児童が通っているにすぎませんが、昭和50年代に入ると第2次ベビーブームの関係もあって1400人もの児童を抱えることになります。そこで青梅市では、新たに東部（吹上）地区に学校を建設し、児童数の適正化を図ります。これが、吹上小学校で、師岡地区吹上地区の子供たちが四小から移っていきます。分家した学校がまた分家を出していく……。まさに青梅市の発展とともに歩んできた第四小学校は昨年3月に78名の卒業を含めて、開校以来9144名の卒業生を送り出しました。

注1：青梅市のナンバースクールは条例によって定められていますが、設立当初からしばらくは算用数字を使用していました。（現在は漢数字）

（文責 神森 正）